

木曾義仲・巴御前を大河ドラマに！

政治・経済の混沌とした平安時代末期、国のため、民のために国難に立ち向かい、力強く生き、新しい時代の礎を築き上げた木曾義仲と巴御前。

富山県、長野県、石川県、埼玉県、滋賀県、神奈川県ゆかりの自治体は、「義仲・巴」のNHK大河ドラマ化を目指しています。皆さまのご理解、ご支援をお願いします。

悲運の「革命児」

木曾義仲



源頼朝・義経の従兄弟。
俱利伽羅峠で平家の大軍を一夜のうちに壊滅。
北陸道を進軍し、平家を都落ちさせ無血入城を果たす。
源氏初の征夷大將軍に任じられるが、義経らの軍に敗れ、非業の死を遂げる。

スーパーヒロイン

巴御前



幼い頃から義仲と共に育ち付き従った女武者。
「平家物語」では「色白で髪の毛の長い美人」で一騎当千の兵者(つわもの)。
晩年は越中に暮らし91歳で亡くなったと伝えられる。

イラスト: 西川おかり

義仲を愛した歴史上の人物

これまで映画やドラマで描かれた義仲像と違い、義仲の真の姿は、実は情けに深く、地方から身を起こして世の中を変革しようとした魅力的な武将であったと考えられています。

松尾芭蕉

義仲の隣に眠る俳聖



俳聖・芭蕉は義仲に深い哀憐の情を抱き、「木曾殿と塚を並べて」と遺言までして義仲の隣に眠る。

民の安寧と国の行く末を思って懸命に戦ったが、権力闘争の狭間で翻弄されながら、短い一生を駆け抜けた悲運の姿に男の美学を見たのであろうか。

芥川龍之介

中学時代に義仲論を執筆



文豪・芥川も義仲を愛した一人。東京府立第三中学校学友会誌に、長文の「木曾義仲論」がある。義仲の「情」「野生」「男らしさ」に惹かれたのだろうか。

若き芥川の木曾義仲論

○「革命の先駆者」 ○「情の人」
○「情熱の人」 ○「従順なる大樹」

「義仲・巴」の進軍ルートは北陸新幹線のルートと一致

武蔵(埼玉)で生まれ、信濃(長野)で育ち、北陸から京へ向かった義仲・巴の進軍ルートは、北陸新幹線のルートと奇しくも一致。開業に伴い注目度が増す北陸新幹線沿線を舞台とした大河ドラマは、国民の高い関心が期待される。



「義仲・巴」広域連携推進会議 (6県41団体)

長野県、木曾町、長野市、上田市、塩尻市、辰野町、麻績村、佐久市、東御市、上松町、木祖村、朝日村、松本市
富山県、小矢部市、高岡市、砺波市、南砺市、朝日町、射水市、氷見市、魚津市、上市町
石川県、津幡町、金沢市、小松市、加賀市、白山市、能美市、野々市市
埼玉県、嵐山町、熊谷市、深谷市、狭山市 滋賀県、大津市、高島市、愛荘町 神奈川県